

花壇づくりワークショップ ニュースレター

Vol. **04**
平成30年3月14日号

日時：平成30年3月14日
10:00～14:00
場所：馬見丘陵公園
花サポーター花壇
参加者：15人

10:00～10:15 全体説明
10:15～10:30 花壇観察、低木類剪定
10:30～11:30 既存苗の撤去
11:30～12:30 休憩
12:30～14:00 苗の配置、植え付け



チューリップフェアに向けた花壇施工

第5回チューリップフェアに向けて、花サポーター花壇を春バージョンに植え替えました。作業当日はとても天気が良く、暖かったので作業がはかどりました。

花サポーター花壇は、12月に植えたパンジーやストックが中心になっていましたが、植物たちは冬の寒さに当たって元気が無くなっていました。ここ数日間で気温が上がり始めたので、パンジーのいくつかは元気を取り戻していましたが、傷んでしまっていた苗も多かったです。

今回の作業ではこれら傷んだ苗の撤去を含めて、以下の作業を行いました。

- ①背景・後列の低木、宿根草を整える
→混んでいる部分や隙間を剪定・移植により調整する/枯れた植物等の撤去
- ②手前から奥へ高くなるボーダーの構成を整える
→高さを考えて新規植物を植える
- ③春らしい植物と色合いにリニューアル
→春に出てくる球根・宿根はできるだけ活かす
→花壇は今までになかった反対色の組み合わせ（黄・橙系 + 青・紫系、アクセントに白系）
→誘導花壇はやや色合いを変える（桃・紫系、アクセントに白系）



ボーダー花壇の構成を整理しました

ボーダー花壇とは、生垣や塀などに沿って列状に作る細長い花壇のことをいい、手前は草丈が低く、後方は草丈が高い植物を植えて立体的に演出します。

花サポーター花壇は、石垣を背面にして段々と背が高くなるボーダー花壇ですが、植物たちの成長により、その形が崩れ始めました。そこで、背の高い花としてヤグルマソウ、キンセンカ、ベニジューム、桃色タンポポ、アイスランドポピー、ムラサキハナナを追加して、中列の高さアップを図りました。植え付けたばかりではまだ背が低いです、暖かくなるにつれてどんどん成長し、存在感も増してきます。

また、後方の低木類は高さを抑えるように剪定し、花の高さに近づけました。風通しが良くなることで、病害虫も防ぐことができます。

春に向けて成長が楽しみです。



質問コーナー

Q. 収穫した種子から発芽させるには？

種子の発芽には、水、温度、光、酸素の4つの環境条件が重要です。また、播種までの間は適切な方法で種子を保存しましょう。

保存 発芽能力を長期間維持するためには、低温・低湿で貯蔵することが大切です。この場合、瓶や缶などで密閉できる容器に十分乾かした種子と乾燥剤を入れて密閉し、冷蔵庫（5～10℃）に入れて保存します。

10℃以上だとカビが生えることがあります!!

温度 種子の発芽には温度が関係し、それぞれの種によってその発芽適温域があります。発芽適温はその植物の原産地の温度によって左右します。種子の発芽の最適温度を参考に、播種の時期を考えましょう。

植物種	最適温度（℃）
キンギョソウ	15～30（4、9～10月）
ヒマワリ	5～35（4～6月）
ストック	20（9～10月）
クリスマスローズ	20（5～6、9～10月）

水 種子は乾燥状態では成長を停止しています。発芽させるには、種子の中に水分を取り入れられる環境を整えます。アサガオやスイートピーなど、種皮が硬くて水を吸収しない種子（硬質種子）は種皮を傷つけ吸水を促し、膨らませてから播種します。

光 一般的に植物は光無しで発芽しますが、発芽に光を必要とする種子（好光性種子）は覆土を嫌います。反対に、発芽のために光を嫌う趣旨（嫌光性種子）は、覆土が薄いと明るくて発芽が劣ります。目安として種子径の2～3倍の深さ程度の覆土をします。

好光性種子	嫌光性種子
ペチュニア、プリムラ、キンギョソウ、コリウス 等	ハゲイトウ、ベニバナ、アザミ、ヒナゲシ 等

酸素 水分を与えられ吸水した種子は、貯蔵エネルギーを変えるために呼吸を開始します。この時に多量の酸素が必要になります。中でもネモフィラは、酸素の濃度が濃くなることで発芽が促進されます。イネ等は水中で発芽し、無呼吸で発芽エネルギーを作ることが出来るので、発芽時に酸素を必要としません。



ネモフィラ

Q. クリスマスローズを種から発芽させるには？

一般的に、クリスマスローズを種から育てるには、種を採取した後、吸水させ、消毒する方法がとられますが、とても手間がかかる上、難しいです。

クリスマスローズを種から簡単に育てるには、こぼれ種から発芽（12～1月）した双葉から、本葉が1枚開いた時期にポット上げします。寒い時期に発芽するので、霜に当たらないように気を付けます。

※クリスマスローズの種は20～25℃の高温に当たった後に、0～5℃の低温に当たることで発芽します。

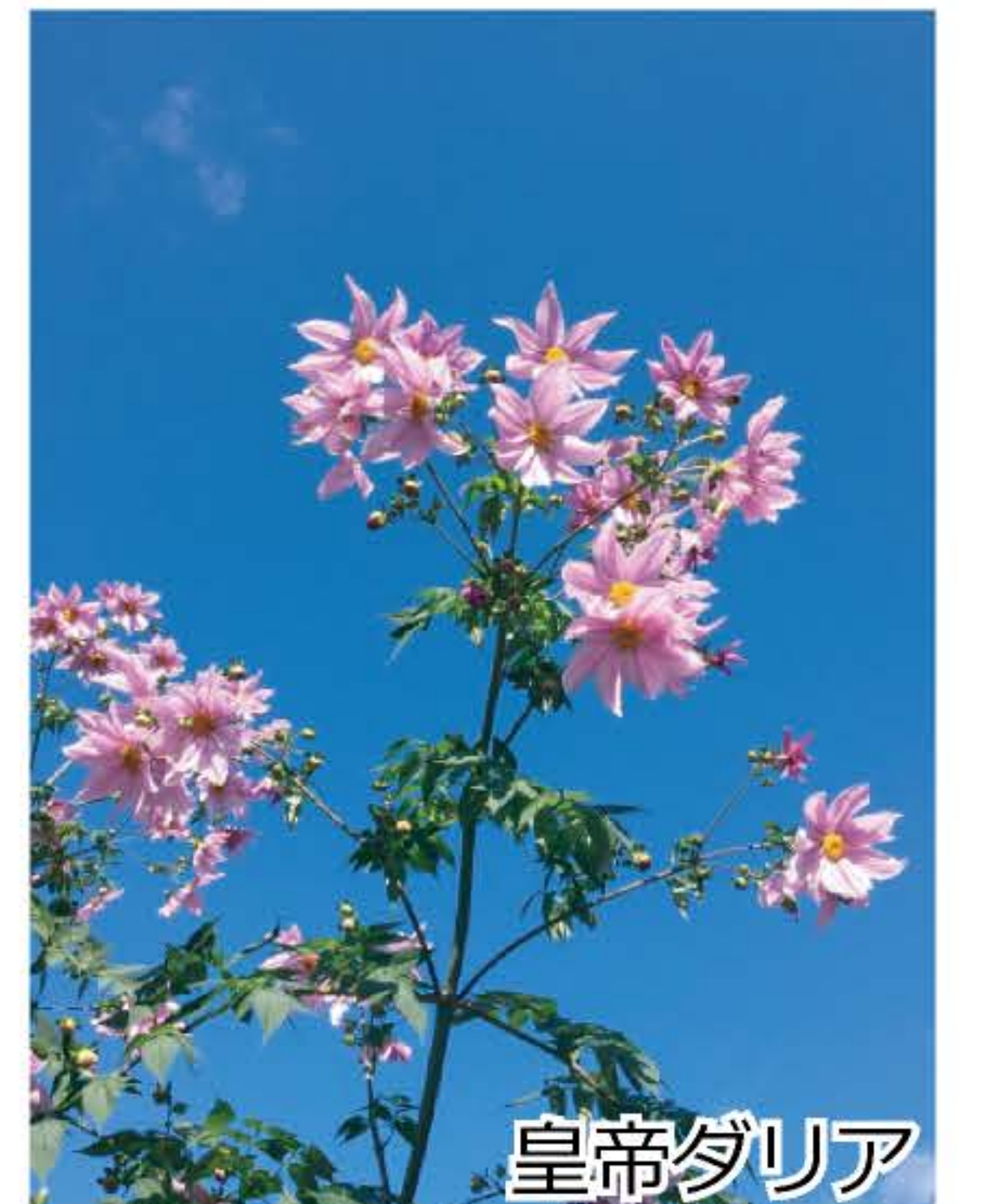


クリスマスローズ

Q. 皇帝ダリアの手入れの仕方は？

皇帝ダリアとは、別名：ツリーダリアといい、キク科テンジクボタン属の宿根草で、草丈の高い花です。よく成長すると5～6mにも達します。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
開花期											●	●
植え付け			●	●	●	●						
肥料（鉢植え）					●	●	●	●	●	●	●	
切り戻し					●	●	●	●				



皇帝ダリア

日当たりと水はけの良い場所で育ててください。表面の土が乾いたら、たっぷり水をやりますが、冬場は乾燥気味にします。地植えする場合は、街路灯や部屋の明かりが当たるところでは花芽が付きにくくなるので、人工的な光の当たらないところに植えましょう。

また、草丈が高くなるので予め支柱を立てておきましょう。太く長い支柱を株を囲むように立てて、しっかり組み上げます。支柱を立てる際は、塊根を傷つけないようにさす位置に気をつけましょう。

これからの季節、6月頃になるとヨトウムシが付くことがあります。新芽や若い葉が食べられていないかよくチェックし、見つけたら手で取るか、殺虫剤で駆除します。



ダリアの支柱
(馬見丘陵公園)

Q. 球根は植えっぱなしにしてもいいの？

球根とは、地下に葉、茎、根の変形した器官に養分を蓄えて、肥大した部分のことをいいます。球根を持つ植物は大抵宿根草ですが、アガパンサス、クリビア、ジャーマンアイリス等区別がはっきりしないものもあるので、ここでは球根植物といえます。球根植物の中でも、高温多湿に強いものは植えっぱなしにしても耐えられますが、5～10年に1回は掘り上げて分球した方が花芽が付きやすくなります。植え付ける際には、以下のポイントに気を付けましょう。

- ・日当たり：日当たりがよく夏は半日陰になるところ。
- ・土づくり：水はけがよい土。
- ・植付深さ：基本的に球根1つ分の深さにする。（ユリ、アリウム・ギガンチウムは球根2つ分）

▼植えっぱなしに耐えられる球根植物（5～10年に1回は分球をお勧めします）



スイセン



ムスカリ



スノードロップ



カンパネラ



コルチカム